



病院長就任挨拶 新年のご挨拶

大分大学医学部附属病院

病院長 門 田 淳 一



新年、明けましておめでとうございます。

昨年12月より病院長を務めさせていただいております門田淳一（かどたじゅんいち）と申します。専門は呼吸器内科・感染症内科です。

大分大学医学部附属病院を代表して、年頭のご挨拶を申し上げます。

平成22年より開始となった本院の再整備も最終段階に入り、外来ホール等の改修をもってほぼ再整備が完了致します。長い間、患者さんにはご不便・ご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。お陰様をもちまして、新病棟、西病棟、東病棟、新外来棟、救命救急センター棟などが既に新しい場所で運用を始めており、高度急性期あるいは急性期疾患、難治性疾患など県内外の患者さんからの多様化するニーズに充分対応できる診療体制・環境を整えることができたと思います。また、本院は診療のみならず倫理観豊かな高度医療人を育成する機関、および新規薬剤や診断技術、医療機器の開発・研究を行う機関でもあります。病院再整備が終了することで高度な医療に対応できる医師、看護師、薬剤師などのメディカルスタッフの育成、および先端医療の研究を推進していく環境が整いました。一方で、わが国は世界に先駆けて少子高齢化が進み、超高齢社会に突入したことで今後疾病構造が大きく変化してくることが予測されています。団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、慢性期や回復期リハビリテーション、あるいは介護などを主に担当する病棟あるいは病院への転換など、わが国の病院の役割分担・機能分化が今後求められています。その中にあっても本院としては、県内唯一の大学病院として、またこれからも県民の皆様へのニーズにお応えできる病院として、最新・高度な医療、そして安心・安全な「患者さん本位の最良の医療」をご提供できるよう、職員一同誠心誠意取り組んでいく所存です。今後とも皆様のご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。

本年が皆様にとりまして良い年でありますよう祈念し年頭のご挨拶と致します。

高度救命救急センター長就任

大分大学医学部附属病院
高度救命救急センター長

坂本 照夫



平成29年7月より大分大学医学部附属病院高度救命救急センター長に就任しました坂本照夫です。私は日田市の出身で、一昨年の3月まで31年間久留米大学病院高度救命救急センターでドクターヘリやドクターカーによる福岡県の救急医療を行っていました。この度、縁あってこの大分県唯一の高度救命救急センターにお世話になり、微力ながら救急医療のお手伝いをさせていただいています。

総務省消防庁28年度版救急救助の現況（救急編）では、平成27年中の全国における救急車要請件数は約605万件で、そのうち搬送した傷病者は約550万人でした。大分県内では要請件数が52,000件で搬送した傷病者は48,000人となっていますが、これらはいずれも毎年少しずつ増加してきており、大分県民の4%の方が救急車で救急病院へ搬送されていました。また、119番通報から救急車が現場に着くまでには全国平均で8.6分、大分県では8.1分と全国平均よりも0.5分速くなっています。さらに、119番通報から病院到着までに要する時間は全国平均が39.4分ですが、福岡県は30分と7年連続で全国1位となっています。大分県の病院到着までの時間は35分と全国では12位、九州では福岡県に次いで2番目に早い時間で到着しています。このように大分県の救急医療体制は九州でも良好とはいえませんが、やはり大分県の地域性もあるのか60分以上要している件数も8.4%、4,000件以上もあるのも事実です。これは、大分県が離島や多くの山間へき地を有していて、救急患者が発生しても病院到着までに長時間を要しており、まだまだ十分とはいえません。このような救急医療現状をさらに分析して地域の自治体（市町村）や医師会の先生方、そして大分県内の救急病院とその基幹病院である本院とともに連携を密にして救急医療体制の更なる構築を目指したいと思っています。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

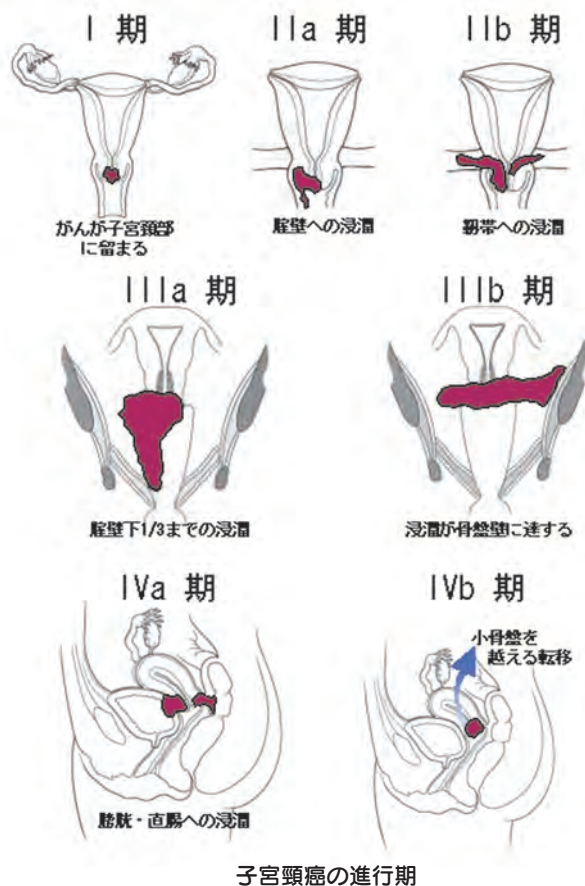
先進医療 腹腔鏡下広汎子宮全摘術

癌の治療の最大の目的は再発、転移といった生命に係わる問題の危険性を可能な限り低くすることにあります。このような目的で行う治療を根治治療と呼び、癌治療の基本となります。

子宮頸癌の治療は、腫瘍の性格および進行度、年齢、合併症の有無などにより手術療法および放射線治療、化学療法（抗がん剤治療）の中から選択されます。本邦においてはⅡ期までは手術療法、Ⅲ期以上では放射線治療や化学療法が標準治療となります。一般に、ⅠA2期～ⅡB期の子宮頸癌には広汎子宮全摘術（+両側付属器摘出術）+骨盤リンパ節郭清術が行われます。広汎子宮全摘術とは腔の一部、子宮周囲の靱帯を含めて摘出する術式であり、患者さんにとって負担の大きい手術になります。本手術は開腹術で行われるのが一般的でしたが、技術・機器の進歩とともに低侵襲手術である腹腔鏡下に行うことが可能になってきました。

今回、紹介する腹腔鏡下広汎子宮全摘手術は、2014年10月より先進医療に指定され、現在、国内の施設で手術が行われており、当施設でも本手術を導入することで、手術の低侵襲化の実現が可能になりました。本手術は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、本院での臨床研究審査委員会（臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会）においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。

海外の報告では、腹腔鏡下手術では、癌の根治性が保たれたまま、出血量の軽減、入院日数の短縮等、多くのメリットがあります。また、この手術は日本国内においてすでに100例以上行われ、その安全性と有用性が報告されています。この手術術式を大分県内の施設で初めて導入しますが、この手術により、患者さんのQOLの向上が期待できます。



シリーズ 病院再整備

外来棟2階ラウンジの運用開始

外来棟2階のラウンジが10月16日(月)に運用を開始しました。利用時間は、平日の午前8時から午後5時15分までです。室内には、テーブル、椅子、清涼飲料水用自動販売機を設置しています。

患者さんやご家族の方の待合せなどにお気軽にご利用ください。



(文責 病院再整備推進室)

車いす贈呈式を開催しました

大分大学医学部附属病院では、大分県商工会連合会の内部組織である大分県商工会女性部連合会から、同会が推進する社会福祉活動の一環として車いす11台を寄贈していただいたことを受け、感謝の意を表すため11月16日(木)に贈呈式を開催しました。

本院が所有する車いすは、経年劣化等により使用が困難となったものが多く、患者さんにご不便をおかけすることがありましたが、今回の寄贈により解決するものと期待しています。本院では、これからも充実した患者サービスに努めてまいります。



(文責 医事課)

がん相談支援センターのご案内

本院は都道府県がん診療連携拠点病院に指定されており、患者さんやご家族のがんに関する様々なご相談に対応する為に、がん相談支援センターを設置しています。面談、電話どちらでも構いません。お気軽にご相談ください。



がん相談支援センター相談員

ピアサロン「^{わ き あい あい}和希愛会」

がん患者さんをご家族の方の交流会です。告知を受けての思いや頑張ってきたこと、悩みなどを語り合う会です。

奇数月に医療ミニセミナーを行い、**女性の会**やイベントも不定期で行っています。お気軽にご参加ください。
(参加費・事前申込不要)

毎月第1金曜日 14:30-16:00
(変更になる場合があります)

がんの悩み等皆で話をします。参加して良かった！という感想を頂いています。



ピアサロンの様子

出張ハローワークについて

がん患者さんの仕事に関する悩みを聴いたり、就職相談について、ハローワーク大分の「就職支援ナビゲーター」が個別に対応します。

日時：毎月第2・4水曜日
13:00-16:00 (要予約)
1人約1時間 1日3名まで

対象：就職希望又は働き方に悩むがん患者さん
(本院を受診していない方でも結構です)

相談・お問い合わせ先：がん相談支援センター TEL 097-586-6370

(文責 看護師長 平山 由佳)



あなたの声をお待ちしております。良い病院になるために



患者さんの「声」は要約して載せておりますのでご了承願います。

声

先月足が痛くて外来で造影剤撮影をして頂き、その検査の後、足が少々悪くなり、痛みを我慢するのも辛くなり、その処置にすぐさま検査に同行して下さった方に色々とお手をかして頂き、本当にその行動に対して言葉がでないほどうれしく、足をさすってくれたり、診察室まで送って下さったり、現場に携わる仕事をしているとは言え、苦しく、痛く、辛い、思いをしている私たち患者にとっては看護師、検査技師さん方の小さな行動でも大変うれしいものです。少しずつですが、回復しつつあります。医師の方々、検査技師の方々、看護師の方々、本当にありがとうございました。

回答

今回は感謝のお言葉を頂戴し、大変光栄に思っております。ありがとうございました。これからも放射線部職員全員が一丸となって患者（医療）サービスの向上に努めてまいります。

声

待ち時間が長すぎて他の診療が出来なく体調が悪くなる。朝早く来て、暗い中、待ち時間の間、早めにテレビを見させてほしい。非常にたいくつ、暗くて本も読めない。

回答

病院玄関の開錠は午前7時30分となっております。開錠とともに外来ホールの照明及びテレビの電源が入ります。管理上の問題がありますので開錠前のご来院はご遠慮くださいますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

(文責 病院長 門田 淳一)

大分大学医学部附属病院の理念等について

【理 念】

本院は、
「患者本位の最良の医療」を基本理念とする。さらに、高度先進医療の開発と提供をとおして、倫理観豊かな医療人を育成し、地域社会の福祉に貢献する。

【基本方針】

本院は、
 一 患者本位の医療を実践する。
 一 医療の質及び医療の安全性の向上に努める。
 一 医学、医療の発展と地域医療の向上に寄与する。
 一 教育、研究、研修の充実を図る。
 一 病院の管理・運営の合理化を推進する。

【患者さんの権利】

- 個人の尊厳が尊重され、良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気、検査、治療などについて、十分な説明を受け、理解した後、治療方法などを自らの意思で同意又は拒否を選択することができます。
- 自分の診療記録について、本院の規則に則って情報の提供を求められます。
- 診療における個人情報を守られ、プライバシーが最大限尊重されます。
- 教育実習及び研究の協力者となることを断ることができます。
- 医療行為の選択にあたっては、他の医療機関を選択することができます。
- 診断や治療方法について、他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求められます。
- 身体の不自由な方、外国人の方にも、できる限りの支援をいたします。

【患者さんにまもっていただくこと】

1. 良質な医療を実現するため、医療従事者に対し、患者さん自身の健康の情報を詳しく正確に伝えてください。
2. 納得できる医療を受けるために、検査や治療の内容を十分理解し、不明な点については十分質問し、合意の上でお受けください。
3. 病院内・敷地内での喫煙は、禁止しています。
4. 飲酒や他の方々への迷惑行為は、禁止しています。
5. 病院内での許可のない録音・録画・写真撮影は、遠慮ください。
6. 携帯電話の使用制限をしている場所での使用は、遠慮ください。
7. 病院内の設備や備品は、大切に请使用くださるようお願いいたします。破損、紛失などの場合は弁償していただくことがあります。
8. 暴力、暴言、セクシャルハラスメント、ストーカー行為があった場合は警察に通報することができます。
9. 医療費の支払い請求を受けたときは、速やかにお支払いください。
10. 入院時は、
 1) 事故防止のため多額の現金や貴重品は、持ち込まないようお願いします。
 2) パソコン・DVD・ラジカセ等の電気製品は、持ち込まないようお願いします。
 3) 当院での駐車場は、外来患者専用となっておりますので、入院中は駐車場を利用できません。
11. 入院中は、
 1) 病院内ではリストバンドを着用してください。
 2) 外出・外泊をする場合は、医師・看護師長による外出・外泊許可証をもらってください。

大分大学医学部附属病院

〒879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地 TEL 097-549-4411 (代)

大分大学医学部附属病院ホームページ <http://www.med.oita-u.ac.jp/hospital/index.html>

これまでの「かけはし」は、医学部附属病院ホームページからご覧いただけます。

